

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称	令和5年度 第1回桶川市いじめ対策委員会	
開催日時	令和5年8月18日（金） （開会）午後1時30分・（閉会）午後3時00分	
開催場所	桶川市役所 401	
主宰者の氏名		
議長の氏名		
出席者氏名 （委員）	4名	
欠席者氏名 （委員）	1名	
説明員氏名		
事務局職員 職名及び氏名	4名	
会 議 事 項	議 題	
	開会	
	1 あいさつ	
	2 委員紹介	
	3 委員長・副委員長選出	
	4 協議等	
	（1）桶川市等のいじめに係る現状	
	（2）第1回学校の生活アンケートの実施について	
	（3）その他	
	5 次回以降の予定について	
	閉会	
	決定事項等	
配布資料	次第・名簿、いじめ対策委員会規則、 桶川市等のいじめに係る現状 令和4年度生徒指導上の諸問題に関する調査 第1回学校の生活アンケートの実施について	

会 議 録 (2)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	開会 1 あいさつ (省略) 2 委員紹介 (自己紹介) 3 委員長・副委員長選出 4 協議等
委員長	(1) 桶川市等のいじめに係る現状について事務局より説明をお願いします。
事務局	資料に基づいた説明 (省略)
委 員	小学校でいじめの認知が増えているがどうしてか。
事務局	いじめを積極的に認知するという認識が、教員に浸透してきたからだと捉えている。
委 員	中学校で、いじめられていることを友達に相談できないことはどうしてか。恥ずかしく思うのか。
事務局	発達段階の特性として、周りに言いづらいのではないか。
委 員	困ったときに、周りに「助けて」と言えるような日頃の指導が大切になってくるのではないか。小学校低学年のいじめが増えているのは、コミュニケーションのスキル不足だと考える。中学校では、いじめ防止の取組としてどんなことを実施しているか。
事務局	中学校では生徒会が主体となって、いじめ防止キャンペーン、いじめ標語等の取組を実施した。小学校にも広めていきたい。
委 員	内容については興味がある。内容によっては、積極的に参加しない生徒も中にはいるのではないか。小学校では、どんな取組を行っているのか。
事務局	小学校では、道徳の学習の時間や学級活動の時間に、ふわふわ言葉やチクチク言葉の違いなどを取り上げている学校もある。
委 員	体験的な学習は実施しているか。
事務局	役割演技やロールプレイングも必要に応じて取り上げたいと考えている。
委 員	例えば道徳の学習で「人の嫌がることはやめましょう」と伝えるだけではいじめはなくなるのではないか。それだけでは限界がある。いじめ防止対策推進法の定義で言えば、人のことを思っただけのことですら、いじめに該当してしまう場合がある。人の気持ちを考えるのは前提であるが、相手のことを思うだけではいじめはなくなる。いろいろな方法を学校から発信することも必要である。
委 員	人間関係で傷ついたり嫌な思いをしたりするのは当然のこと、それをどう受け止めて、相手とうまくやっていくのかを、教えていくことが必要である。学校は知識を教えるだけではなく、社会生活にどう適応していくのかを教える必要があるのではないか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	いじめの様態の「その他」とはどんなことか。
事務局	具体的な内容については、次回に回答する。
委 員	警察に相談した件数が1件ある。どんな内容か。
事務局	SNSに関連した内容である。
委 員	いじめが原因で不登校になった児童生徒はいないか。
事務局	昨年度は認知していない。いじめの解消については、いじめに係る行為が止んでいる状態が少なくとも3か月、なおかつ被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことが必要となる。いじめの行為がやんでから概ね3か月の見届けが必要となっている。3学期に認知したいじめ件数については、調査の段階で3か月に至っていないため解消になっていないケースも含まれている。今年度に追跡調査を実施しており、昨年度認知したいじめのうち、小学校では99%、中学校では97%解消となっている。
委 員	「困っている」ということを大人に相談し、大人が解決してくれると確実に経験となる。
事務局	子供たちの年齢が上がるにつれて、周囲に相談できなくなってくる傾向がある。相談体制の充実も課題であると捉えている。
委 員	さわやか相談室の利用状況も気になる。相談室は自分を見つめる場所でもある。もっと子供たちが気軽に相談できるようになるとよい。
委 員	場所や人の配慮も必要である。
委 員	ICT機器の活用状況はどうか。SNS等を利用できるか。
委 員	子供たちは直接言うよりも、メッセージの方が発信しやすくなっている。
事務局	一人1台端末を利用して、子供のSOSを拾う取組を検討していきたい。
委 員	日本では、いじめはネガティブなイメージが大きすぎて、相談しづらいのではないかと捉えている部分がある。いじめを対人トラブルであると考えられるようになれば、もっと気軽に相談できるようになるのではないかと。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	相談室は特別な場所というイメージが大きすぎるのではないか。言わない人たちに耳を傾ける方法を考えないといけない。
委 員	教員の年齢も若くなっているなので、児童生徒から引き出すスキルの蓄積が足りないのではないか。先生同士で共有できるとよい。
委 員	文章で表すのではなく、例えば、「はい」か「いいえ」で1日の気分を聞き取っていくのはどうか。簡単にできて、子供も簡単に気持ちを言えるようなものがあるとよい。
委 員	気分を表すカード的なものがあるとよいのではないか。
委 員	コロナでコミュニケーション能力が著しく低下したようにも感じる。
委 員	今回、いじめの認知件数が増えたことについて、学校現場はどう捉えているか。
事務局	いじめを初期の段階で積極的に認知できていると、肯定的に捉えているのではないか。
委 員	要因はどう考えているか。特に低学年が増えている。積極的な認知ができてきたからだけではなく、分析をすることが必要と考える。
委 員	コロナの影響もあるのか。
事務局	就学前の生活も、おそらく関係しているのではないか。大人も子供もみんながマスクをしていて、表情が読み取れない中で幼児期を過ごしてきた子供たちである。
委 員	いじめの件数が増えたのは、先生方の指導不足ではない。自分の指導不足と思われたくないから報告しないという状況もあったかもしれないが、そうではない。
委 員	いじめはあって当たり前、との認識がより一層広まるとよい。
委員長	(2) 第1回学校の生活アンケートの実施について事務局より説明をお願いします。
委 員	資料に基づいた説明(省略)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	アンケート項目の「その他」のところに具体的に書けるとよい。
委 員	学校現場でも性的マイノリティーの児童生徒はいると思われる中で、男・女の記入をするのはどうか。
委 員	アンケートの文言の中の「相談」という言葉は小学校低学年でわかるか。
委 員	実施時期が6月なので、入学後の1年生でも、ある程度理解できていると思う。
委 員	家庭生活の中で「困っている」子は、日常のことなので、困り感がない。困っているかと聞いても困ってない、と言う。
委 員	いじめる子も、いじめられる子も、何かを抱えていることが多い。
委 員	アンケートの記載の中には、いじめ事案ではなく、虐待の可能性も含まれているとの認識が先生方にもあるとよい。
委 員	「誰かに噂をされている」等の表現があった際は統合失調症等の発病の可能性もある。「悪口を言われる」というのも、誰も見ていない場合は本人の幻聴の可能性もある。
委 員	学校現場の先生方は忙しいというのはよくわかる。ただ、いろいろな可能性で考えてほしい。書かれていることを別の目線で考えることも必要ではないか。
委 員	次回、実施をする際には、いろいろな視点で見られるように、例示をしたらいかがか。
委 員	委員からの意見をもとに、次回実施するアンケートの形式は考えてみてはどうか。
事務局	検討する。 (3) その他(特になし) 5 次回以降の予定について(省略) 閉会